

JAIR Newsletter

No.157 October 2018

日本国際政治学会


<http://jair.or.jp/>

[目次]

巻頭言.....1	理事会便り.....3
事務局からのお知らせ.....2	編集後記.....3
2019年度研究大会報告募集.....2	

国際関係における「ゆらぎ」と グローバル・ガバナンス・アーキテクチャーをめぐる政治

山田高敬

19世紀以降の国際関係の歴史を振り返るとき、興味を最も曳くものは何か。国際法を起点に国際政治学を学んできた筆者にとって、それは第一義的には国際制度の複雑化である。

第二次世界大戦直後はリアリズムの想定を超える国際協調体制が次々と構築された。特に国際経済領域では自由主義的な国際秩序の実現をめざしてレジームがつくられ、貿易や投資の自由化に向けた協調的な行動が促進された。だが、この過程で環境破壊などの自由主義の弊害が露呈すると、経済的な効率性のみを重視するガバナンス・アーキテクチャーに疑問が投げかけられるようになった。しかし、こうした弊害に対処すべく多国間レジームを強化しようとする試みは、新興国の台頭に伴う国益の対立によって阻まれ、国際社会はレジーム以外の方法での対応を迫られた。

一つは、持続可能な開発目標（SDGs）などに代表される目標志向型のガバナンスによる対応であった。これは、共通目標だけを決めておき、後はそれぞれのアクターの自主的な努力に委ねるという方式である。ポスト京都議定書の枠組みとしてのパリ協定も、政府間レジームとしての体裁はとるものの、実体としては各アクターの自主性を重んじる目標志向的なガバナンスである。もう一つの対応は、非国家主体が主導するトランスナショナル・ガバナンスであった。持続可能な森林資源をめざすFSCなどのプライベート認証制度や、企業の気候変動への取り組みを企業から提供される情報を基に評価するCDPなどがその代表例である。このようにガバナンス・アーキテクチャーが複雑化すると、当然だが、異なるガバナンス主体間での調整に注目が集まる。レジーム・コンプレックスやオーケストレーションの議論はそれを捉えようとする概念である。

しかしグローバル・ガバナンスに関与するアクター間の相互作用に着目さえすれば、グローバルな秩序形成をめぐる「政治」を本当に理解できるのだろうか。政治とは、どうしたら目標をより効率的かつ効果的に実現できるかのみを問うものではなく、現行の目標が、本当に社会が目指すべき目標なのかを問うものであろう。もしそうだとしたら目標を逸脱しようとするシステム内の様々な「ゆらぎ」を理解してこそ、はじめて政治現象としてグローバル・ガバナンスを捉えることができるのではないだろうか。グローバル・ガバナンスに関しては依然として市場による価値配分を掲げる自由主義的な傾向が強い。しかし、けっしてイデオロギーが終焉したわけではない。システム内で発生するわずかな「ゆらぎ」をいち早く発見し、そこからどのような秩序が形成されるのかを分析することこそグローバル・ガバナンス研究の醍醐味であると言えはしないだろうか。



事務局からのお知らせ

1. 新入会員の承認

第3回理事会（9月15日開催）で入会申込書等が回覧され、27名の新入会員が承認されました。会費の納入をもって正式に会員となりますので、入会を承認された方々は会費を納入してくださいませよう、お願いいたします。

2. 2020年度の研究大会予定

2020年度の研究大会は、つくば市のつくば国際会議場で10月23日～25日に開催を予定しています（大会実行委員長は湯川拓会員）。なお、2019年度の研究大会は、予定通り、新潟市の朱鷺メッセで10月18日～20日に開催します（大会実行委員長は武田知己会員）。

3. 会員登録情報更新のお願い

所属機関や連絡先に変更があった場合には、会員登録情報の更新をお願いいたします。特に、学会活動活性化のため、メールアドレスの登録・更新にご協力下さい。学会ウェブサイトの「会員データ変更」から「オンライン会員情報管理システム（e-naf）」 [<https://www.e-naf.jp/JAIR/member/login.php>] に入り、修正・追加もしくは変更の申請を行っていただけます。

2018-2020 年 期 理 事 長 佐々木卓也

2018-2020 年 期 事 務 局 主 任 石川卓

2019年度研究大会 部会企画・自由論題報告募集のお知らせ

2019年度研究大会（朱鷺メッセ（新潟市）、2019年10月18日～20日）での部会企画の提案および自由論題（部会）の報告希望を募集致します。応募に必要な事項は以下の通りです。応募に際して、報告者についての下記の内規を確認していただくようお願い致します。なお部会（自由論題部会を含む）での報告者には、ペーパーの提出が義務づけられています。

（1）締め切り：2018年12月14日（金）（必着）

送付方法：応募はe-mailまたは郵送にてお願いいたします。

送付先：〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科18号館 森井裕一

email：ymorii☆ask.c.u-tokyo.ac.jp（☆を@に置き換えてください）

電話：03-5454-6358（留守番電話対応のみ、FAXはありません）

「メールの件名または封筒に「日本国際政治学会2019年度研究大会部会企画・報告応募」と明記してください（郵送の場合、学内の配達に時間を要するため、都内からでも投函翌日には届かないことが多いので、余裕を持って発送してください）。

（2）応募に必要な事項

①部会企画案

(i) テーマ、(ii) 趣旨（800字～1200字程度）、(iii) 報告者、司会者、討論者、などを記すこと。

②自由論題報告案

(i) テーマ、(ii) 要旨（800字～1200字程度）などを記すこと。

部会企画の提案者もしくは自由論題の報告希望者のいずれも、氏名、所属、職名、連絡先（住所、電話番号、e-mailアドレス）を記すこと。

応募用紙は、学会 HP (<http://jair.or.jp/committee/kikaku/3339.html>) にてダウンロードできます。

（3）部会参加に関して、以下の事項が内規に定められていますので、ご注意ください。

1. 部会参加者は、原則として、会員及び入会申請中の者とする。

2. 一般会員が、部会及び自由論題部会において報告を行う場合、応募時において過去二年間（2017年度、2018年度）に開催された研究大会の部会で報告を行った会員（申請中を含む）は、報告者の候補たりえない。この原則は司会者及び討論者については適用されないものとするが、なるべく同じ会員の登壇は控えることとする。

3. 学生会員が、部会及び自由論題部会において報告を行う場合、応募時において過去一年間（2018年

度)に開催された研究大会の部会で報告を行う会員(申請中を含む)は、報告者の候補たりえない。この原則は司会者及び討論者については適用されないものとするが、なるべく同じ会員の登壇は控えることとする。

4. 自由論題部会にて報告を行う場合、上記の2. 及び3. に加え、応募時において過去二年間(2017年度、2018年度)に開催された研究大会の分科会で報告を行っていない会員(申請中を含む)、学生会員の場合は過去一年(2018年度)の大会で報告していない会員が優先される。

(企画・研究委員会主任 森井裕一)

理事会便り

広報委員会からのお知らせ

学会 HP では、会員の皆様からのシンポジウム等のお知らせや新刊紹介などを随時掲載しております。情報交換・共有の場としてご活用ください。掲載を希望される場合は、HP 右側のメインメニューの「お知らせ投稿フォーム」をご利用のうえ、ご投稿ください。統一的な記録を残していく必要があるため、お手数ですが、上記の「お知らせ投稿フォーム」への記載をお願いいたします。パスワードにつきましては、紙媒体ニューズレター146号に掲載されていますが、今後は、会費納入用紙、『国際政治』等、各種の郵便物とともにお知らせします。

その他、ニューズレターや HP についてお問い合わせ等がありましたら、広報委員会(jair-pr☆jair.or.jp)にご連絡ください。(☆を@に代えてください)

広報委員会主任 山田哲也

■編集後記

今期、広報委員会主任を仰せつかりましたTYです。今回のNLはSKさんにおんぶに抱っこで作成致しました。皆様のお力添えを頂ければ幸いです。(TY)

これまでもっぱら読者でしたが、今回から編集作業に携わることになりました。

会員相互をつなぐ大事な媒体だと、改めて認識しているところです。(TM)

前期に引き続き、ニューズレターや学会HPを通じた会員間の情報共有等に、微力ながら貢献していきたいと思っております。今期もよろしく願い申し上げます。(SK)

日本国際政治学会ニューズレター No.157
(2018年10月31日発行)

発行人 佐々木卓也
編集人 山田 哲也・宮城 大蔵・小林 哲

〒186-8601 東京都国立市中 2-1
一橋大学第三研究館内
日本国際政治学会 一橋事務所気付
山田哲也 jair-pr☆jair.or.jp